

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	鹿児島県立短期大学
設置者名	鹿児島県

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配置 困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本語日本文学専攻	—	27		18	45	7	—
	英語英文学専攻	—	27		1	28	7	—
生活科学部	食物栄養専攻	—	27	2	38	67	7	—
	生活科学専攻	—	27	2	54	83	7	—
商経学部	経済専攻	—	27	11	14	52	7	—
	経営情報専攻	—	27	11	4	42	7	—
第二部商経学部		夜・通 信		6	19	25	7	—
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学生への講義計画書（シラバス）の配布 本学ホームページにも掲載
<http://www.k-kentan.ac.jp/kpcinfo/data/5-3syllabus2022ver1.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	鹿児島県立短期大学
設置者名	鹿児島県

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	外部評価委員会
役割	<p>① 本学が作成した自己点検・評価の結果に係わる報告書に基づき、第三者の立場から本学の教育研究等について評価し、本学の教育研究水準の向上、組織の活性化及び将来の展望に資する提言を行うこと。</p> <p>② その他本学の教育研究等について意見を述べること。</p> <p>なお、平成31年3月1日の教授会において、外部評価委員会運営要領（別添）を改正し、令和2年4月1日から施行している。</p>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
大学センター長	2年	学識経験者
大学教授	2年	大学運営関係者
新聞社本部長	2年	本学の所在する地域の関係者
民間団体委員長	2年	本学の所在する地域の産業界
医療機関技術職	2年	本学の所在する地域の産業界
教育関係者団体	2年	本学の所在する地域の関係者
同窓会長	2年	本学に在籍した経験を有する者
<p>(備考)</p> <p>平成31年3月1日の教授会において、外部評価委員会運営要領（別添）を改正し、令和2年4月1日から施行している。</p>		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鹿児島県立短期大学
設置者名	鹿児島県

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(以下、シラバス)は、毎年10月頃の教務委員会で、(1)様式、(2)記載項目を確認し、12月頃に学科会議を通して各教員に作成を依頼する。各専攻の教務委員は、シラバスの記載内容に不備がないかを確認して1月に取りまとめ、年度末までに印刷する。</p> <p>印刷したシラバスを学生1人1人に配布すると同時に、本学のホームページ(学外者も閲覧可能)で公表している。ホームページの閲覧にはパスワード等は不要で、誰でも閲覧することが可能となっている。</p> <p>本学でのシラバスの内容は、①授業の方法(講義、演習、実験、実習の別)、②授業のテーマ・概要・到達目標、③テキスト・参考文献、④授業の計画(15回の講義ならば15回分のテーマ)、⑤授業外学習(予習・復習)について、⑥成績評価の方法(評価の際の試験・レポート・小テストの割合も示す)も記載している。令和2年度からのシラバスでは、新たに⑦実務経験のある教員の項目を設置した。</p>	
授業計画書の公表方法	http://www.k-kentan.ac.jp/kpcinfo/data/5-3syllabus2022ver1.pdf
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスにおいて、すべての講義、実験、実習の科目の成績評価方法を明記し、学生に事前に周知している。また、客観的な評価の割合(例えば、期末試験70%+小テスト30%など)もシラバスで明示している。この成績評価の方法、および評価の割合は、ホームページでも公表している。</p> <p>また成績評価の基準については、「鹿児島県立短期大学履修規程」において、90点以上を「秀(A)」、80点以上~90点未満を「優(B)」、70点以上~80点未満を「良(C)」、60点以上~70点未満を「可(D)」、60点未満を「不可(F)」としていて、この点については、各学生に配布する『学生便覧』およびホームページ(学外者も閲覧可能)で事前に公表を行っている。</p> <p>ホームページ等で学生にあらかじめ示した客観的な指標である「成績評価の方法」及び「成績評価の基準」をホームページ等で学生にあらかじめ示し、学修成果の成績を判定している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学ではGPAの算出方法について、「鹿児島県立短期大学履修規程」にて規定している。</p> <p>この規程は各学生に配付する『学生便覧』及び本学ホームページ(学外者も閲覧可能)にて公表している。</p> <p>グレードポイント(GP)を、「秀(A)」は4点、「優(B)」は3点、「良(C)」は2点、「可(D)」は1点、「不可(F)」は0点と設定し、計算式は、「$GPA = \frac{\text{授業科目で得たGP} \times \text{その授業科目の単位数}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の総和}}$」とすることを「鹿児島県立短期大学履修規程」で明記して、『学生便覧』及び本学ホームページで公開している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.k-kentan.ac.jp/kpcinfo/data/5-4rshukitei2020.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、「鹿児島県立短期大学の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)」を各学科各専攻ごとに設定して、ホームページ(学外者も閲覧可能)で公表を行っている。年度末には各学科各専攻でディプロマ・ポリシーの検討を行い、その結果を翌年4月の全学運営委員会及び学科会議で報告をして、全学的にディプロマ・ポリシーの共有を図っている。</p> <p>卒業の要件、卒業判定については、「鹿児島県立短期大学履修規程」に基づいて、「授業科目及び卒業所要単位等」を各学生に配布する『学生便覧』及び本学ホームページ(学外者も閲覧可能)でも公表している。</p> <p>ここでは、①必修・選択科目、②単位の計算方法、③卒業所要単位、④卒業のための最低履修単位表、⑤履修手続、⑥単位修得、⑦成績評価、⑧資格の取得の方法等について明記してある。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>http://www.k-kentan.ac.jp/about/diploma.pdf http://www.k-kentan.ac.jp/kpcinfo/data/5-4rshukitei2020.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: _____ 対象年度: _____)
公表方法:
中長期計画(名称: _____ 対象年度: _____)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ (<http://www.k-kentan.ac.jp/certification/index.html>)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページ (<http://www.k-kentan.ac.jp/certification/index.html>)

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学科
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.k-kentan.ac.jp/)
(概要) 1 本学では、教養教育と専門教育との有機的な連携を図り、社会情勢の変化に的確に対応できる課題探求・解決能力の育成と、社会の形成に主体的に参画するために必要な優れた人間性の涵養とおとして、豊かな教養を有し、職業又は実際生活に必要な能力を備えた社会人を継続的に送り出し、もって地域の発展に寄与することに努める。 2 本学に所属する教員は、たえず高い学術研究能力と優れた実績的教育能力の形成に尽力し、大学全体として、個々の教員の諸能力が十分に発揮できるような学科・専攻の教員組織を編成するとともに、必要に応じてその適切な改編に努める。 3 本学は、学生が意欲的に学習に専念でき、満足度の高い学生生活を送ることができるよう、講義・演習・実習等に関わる修学、心身の健康、課外活動、就職活動等にわたって、必要かつ適切な学生支援を行う。 4 本学は、学生や教職員が安全で快適な学生生活及び職業生活を享受することができるよう、学内の施設・設備の充実・更新を図り、継続的に教育研究等環境を整備し改善することに努める。 5 本学は、県内唯一の公立短期大学として、県民の文化的かつ知的な生涯学習の一拠点を担い、地域や産業界との連携・協力を重視かつ拡充し、たえず地域の振興・活性化に貢献するよう努める。 6 本学は、大学の理念・目的及び教育目標を達成するため、学長のリーダーシップのもとに、学内教職員の積極的な議論や参加に基づく合意形成を重視し、自律性・合理性・機動性を備えた適切な学内管理運営を行う。 7 本学は、定期的な自己点検・評価の努力を通じて、教育・研究・社会貢献・管理運営等の活動の実情を正確に把握し分析するとともに、社会の課題やニーズに対応し適法性に配慮してたえず必要な改善を図り、高等教育機関に相応しい質保証とその質の向上に努める。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.k-kentan.ac.jp/about/diploma.pdf http://www.k-kentan.ac.jp/kpcinfo/data/5-4rishukitei2020.pdf)
(概要) ■ 文学科 日本語日本文学専攻においては、『文学・言語・文化を幅広く学ぶことを通して、日本語に関する知識と表現力、日本文学を広くかつ深く解釈し鑑賞する能力を有し、豊かな文学的感性、柔軟な思考力、的確な表現力を兼ね備えた、多様化した地域社会に対応できる人材』、英語英文学専攻においては、『文学・言語・文化を幅広く学ぶことを通して、豊かな教養と高い専門性を身につけ、実践的な高い英語コミュニケーション能力を有し、柔軟な思考力と的確な表現力を兼ね備えた、多様化したグローバル社会に対応できる人材』の育成を図り、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し且つ単位を修得した学生を、『学生が卒業までに身につけるべき能力』を備えたものとして、文学科にあつては学位『短期大学士(文学)』を授与する。 【学生が卒業までに身につけるべき能力】 (1) 日本語日本文学専攻 ① 日本、中国、郷土の文学・言語・文化、社会事情を幅広く理解し、グローバル時代における共存社会の諸問題に興味・関心を持ち、意見を述べることができる。 ② 日本語学、日本語教育学、日本文学、中国文学、地域文学について幅広く理解し、言語に対する知識と表現

力を持ち、文学を広く深く解釈し鑑賞することができる。

- ③ 他国の文学・文化に興味・関心を持ち、文化の多様性を理解して日本を相対的に捉え、地域社会に貢献することができる。

(2) 英語英文学専攻

- ① 英語と英語圏の文学・歴史・文化、社会事情を幅広く理解し、グローバル時代における共存社会の諸問題に興味・関心を持ち、意見を述べることができる。
- ② 「読む・書く・聞く・話す」の4技能のバランスのとれた英語力を実践的に運用し、異なる文化や思想を持った他者の考え方や視点に配慮してコミュニケーションすることができる。
- ③ 地域社会のグローバル化に興味・関心を持ち、その諸問題について主体的に考え、地域文化や経済、産業の振興に寄与することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：(公表方法：<http://www.k-kentan.ac.jp/about/curriculum.pdf>)

(概要)

■ 文学科

(1) 日本語日本文学専攻

日本語日本文学専攻のカリキュラムは、専門基礎科目、日本語学科目、日本文学「古典」科目、日本文学「近代」科目、地域文学・中国文学科目、卒業研究で構成されている。

① 専門基礎科目

大学の教育カリキュラムにスムーズに移行するためのリテラシー教育、専門分野を学ぶために必要な基礎的能力と知識の習得を行う。

② 日本語学科目

日本語学、言語学、日本語教育学、日本語表現について、基礎から専門へと体系的に学ぶ科目を配置し、日本語及び言語について専門的知識や思考力を養うとともに、言語によって事実を正確に示して的確に意見を伝える表現力を養う。

③ 日本文学「古典」科目

日本の古典文学について、文献購読を重視して基礎から専門へと体系的に学ぶ科目を配置し、日本文学の知識を得るとともに、作品を精読して「読む」能力を向上させ、文学的感性を養い、発表と討議を通して読解力、表現力を向上させる。

④ 日本文学「近代」科目

近世、近代から現代の日本文学について、文献購読を重視して基礎から専門へと体系的に学ぶ科目を配置し、日本文学の知識を得るとともに、作品を精読して「読む」能力を向上させ、文学的感性を養い、発表と討議を通して読解力、表現力を向上させる。

⑤ 地域文学・中国文学科目

鹿兒島の地域文学を学ぶ科目及び中国文学について基礎から専門へと体系的に学ぶ科目を配置し、地域文学・文化、中国の文学・文化・歴史を多角的な視野で学ぶことで、異文化理解を促す柔軟な思考力を養う。

⑥ 卒業研究

各自が設定するテーマについて専門領域の教員の指導のもと、短期大学の学修の集大成として卒業研究を作成し、学生自らが課題を探究し、その解決に向けて必要な情報を収集・整理して論理的に結論を導き出すことを目標とし、総合的な課題探究・解決能力を培う。

(2) 英語英文学専攻

英語英文学専攻のカリキュラムは、専門基礎科目、コミュニケーション科目、英語学科目、英米文学科目、比較文化科目、卒業研究で構成されている。

① 専門基礎科目

大学で必要な学習技術として、自らの意見を論理的にまとめられる思考力と的確な表現力を少人数で実践的に指導する。

② コミュニケーション科目

コミュニケーションの理論と実践について体系的に習得することをねらいとした科目を配置し、専門的知識や思考力、判断力を養うとともに、「読む・書く・聞く・話す」の4技能のバランスがとれた実践的な英語コミュニケーション力を総合的に向上させる。

③ 英語学科目

英語学の諸分野について基礎的な知識を体系的に習得させる科目を配置し、英語という言葉进行分析する力を養うことをとおして英語に対する理解を深め、より正確な英語コミュニケーションができるようになるための素地を作る。

④ 英米文学科目

英米文学の背景と作品を学んで基礎的な知識を習得させる科目を配置し、作品の精読と速読をとおして「読む」能力を向上させ、同時に作品に潜む問題点を考えさせて自らの意見を発信させる思考力を培う。

⑤ 比較文化科目

英語圏の文化・文学・歴史を多角的な視野で学ぶ科目を配置し、異文化理解を促す柔軟な思考力を培う。比較文化的視点から社会を読み解く方法を習得させることで、多様な文化の中にある自己を認識し、地域の問題をグローバルな視点で理解できる国際人としての素養を育む。

⑥ 卒業研究

各自が設定するテーマについて専門領域の教員の指導のもと、短期大学の学修の集大成として卒業研究を作成し、情報収集や分析手法、問題提起、論理構築、課題探求力などの総合的なアカデミックスキルを培う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.k-kentan.ac.jp/about/admissionp2020.pdf>)

(概要)

鹿児島県立短期大学は、第一部（昼間）に3学科6専攻、第二部（夜間）に商経学科の1学科を設置した、男女共学の総合的公立短期大学である。

本学の教育目標は、「深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな教養と、職業又は実際生活において必要な課題探求・解決能力を有する人材を育成し、もって地域社会の発展に寄与する」ことである。この目標にそって、本学では以下のような人を求めている。

- 1 基礎的な学力を身につけて、地域社会において意欲的に活躍する人
- 2 世界の中で思考し、地域に根ざした活動のできる人
- 3 少人数教育の場に意欲をもって参加する人
- 4 創造的な行為を生む知的な冒険をする人

区 分		日本語日本文学専攻	英語英文学専攻
教育 理 念 ・ 目 標		文学科は、「文学、言語、文化を学ぶことを通して、豊かな文学的感性、柔軟な思考力、的確な表現力を有し、多様化した社会で活躍できる人材を育成する」ことを教育理念としている。	
		日本語日本文学専攻は、「日本語及び日本文学の理論を学び、作品を読むことを通して、日本語に関する知識と表現力、日本文学を広くかつ深く鑑賞する能力を有し、多様化した地域社会で活躍できる人材の育成」を目標にしています。この目標を達成するために、古文・漢文を含む文献講読や演習を重視したカリキュラムとなっています。	英語英文学専攻は、「英米文学、英語学、英語圏文化を学ぶことを通して、英語運用能力と豊かな教養を有し、多様化した国際社会に対応できる人材の育成」を目標にしており、英語の実践的運用能力を高めるよう、少人数制の徹底した演習方式の授業を行います。
求 め る 人 材		<ul style="list-style-type: none"> ① 日本語の歴史の変遷や方言など言語に興味・関心のある人 ② 日本の古典文学や近・現代文学に興味・関心のある人 ③ 中国の文学や中国語に興味・関心のある人 ④ 日本語教育を通じた国際交流に興味・関心があり、実際に活動をしたい人 ⑤ 中学校教諭二種免許状（国語）を取得して、国語教育にかかわる進路を目指す人 	<ul style="list-style-type: none"> ① 英語運用能力の習得に強い熱意をもつ人 ② 英米文学、英語学、英語圏文化の学習に興味・関心のある人 ③ 国際交流にかかわる活動に、英語力を生かして積極的に参加したい人 ④ 本学の編入学協定制度を通して、海外の大学に留学したい人 ⑤ 中学校教諭二種免許状（英語）を取得して、英語にかかわる仕事に就こうと考えている人 ⑥ 英語の各種検定の資格取得に熱意のある人
受 入 方 針	一 般 選 抜	<p>大学入学共通テストと個別学力検査の総合評価により入学者の選抜を行います。</p> <p>大学入学共通テストでは、国語、英語（リスニングを含む）、地歴・公民の基礎学力を判定します。</p> <p>個別学力検査では、高等学校の学習一般を前提として、記述式問題により、論理的思考力や言語等による表現力を総合的に問う問題を課します。具体的には、現代文及び古文・漢文を含む文章問題を中心にして、日本語日本文学専攻で必要とする知識や、表現力、論理的な思考力を確認します。</p>	<p>大学入学共通テストと個別学力検査の総合評価により入学者の選抜を行います。</p> <p>大学入学共通テストでは、英語（リスニングを含む）、国語、地歴・公民の基礎学力を判定します。</p> <p>個別学力検査では、高等学校の学習一般を前提として、英語読解力、英語表現力等を判定するため、記述式問題により、論理的思考力や言語等による表現力を総合的に問います。具体的には、多分野にわたる英語長文読解と自由作文を中心として、英語英文学専攻で必要とするリーディング、ライティングの能力及び論理的思考力等を問います。</p>
	学 校 推 薦 型 選 抜	<p>小論文、面接、調査書等の総合評価により、入学者の選抜を行います。</p> <p>小論文では、高等学校において履修する国語（古文・漢文を範囲に含む）を題材に、言語や文学に対する関心や問題意識、読解力、文章表現力等を確認します。</p>	<p>英語英文学専攻への入学に対する強い目的意識を持ち、入学後に意欲的、主体的に行動できるかを、小論文、面接、調査書等の総合評価により判定します。</p> <p>小論文では、英語英文学専攻で求められる幅広い教養や、多様化した現代社会に対する</p>

	<p>面接では、志望理由書および調査書特記事項を参考資料として、志望動機や意欲を見るとともに、口頭による表現能力や判断力を確認します。</p> <p>調査書では、全体の学習成績の状況だけでなく国語の成績も重視します。また、高等学校における活動・経験なども（面接の中で本人から確認したうえで）評価に加えます。</p>	<p>問題意識を把握できるような問題を課し、修学上必要な読解力、分析力、考察力、論理的思考力、文章表現力等を確認します。</p> <p>面接では、志望動機・意欲や体験・思考等を説得力をもって伝えられるかを確認します。これに加えて、対面式の口述試験を課して、実践的英語運用能力を確認します。</p>	
--	---	--	--

<p>学部等名 生活科学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.k-kentan.ac.jp/）</p>
<p>（概要）各学科共通</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.k-kentan.ac.jp/about/diploma.pdf http://www.k-kentan.ac.jp/kpcinfo/data/5-4rishukitei2020.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>■ 生活科学科</p> <p>食物栄養専攻においては、「①食生活や健康に幅広い関心があり、『食生活を科学する』ことに興味を持ち、自ら学習し追求する意欲のある人材」、「②食生活をより良い方向へ支援するための専門的知識と技術を修得し、栄養士としての実践力を持つ人材」、生活科学専攻においては、「①生活を科学的に理解し、質の高い生活を実現するために、目標を設定して具体化するデザインの視点を学ぶことができる人材」、「②科学的方法やデザイン力でより良い生活環境を創造することができる人材」の育成を図り、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学かつ単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業するまでに身につけるべき能力」を備えたものとして、生活科学科にあっては学位「短期大学士（生活科学）」を授与する。</p> <p>【学生が卒業までに身につけるべき能力】</p> <p>(1) 食物栄養専攻</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 栄養士として、食物及び食生活についての幅広い専門的知識を身につけ活用できる。 ② 専門的知識を活用して、人々の健康を維持増進するための支援ができる。 ③ 協調性やコミュニケーション能力を身につけ地域社会に貢献できる。 <p>(2) 生活科学専攻</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 身の回りにある事象全般に興味を持ち、生活を豊かにするデザイン力を実践できる。 ② 地域の歴史や環境に根ざした住居や建築物をデザインできる。 ③ 社会環境に調和し、身体に適した衣生活を実践できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>（公表方法：（公表方法：http://www.k-kentan.ac.jp/about/curriculum.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>■ 生活科学科</p> <p>(1) 食物栄養専攻</p> <p>食物栄養専攻のカリキュラムは、栄養士としての基礎的知識を身につけ、実践力の修得を目指すために、学科共通科目、専門科目（基礎科目・応用科目）に関する科目群で構成されている。</p>

① 学科共通科目

生活科学科では、社会生活を送る上で必要となる豊かな人間性と幅広い知識を身につけ、更に専門分野の修学に応用できるように科目を配置している。

学科共通科目では、人間、生活、文化、社会との関連性を重視するとともに、健康で豊かな人生を創造でき、心身の健康を養い、情報化の進展に対応した教育を行う。

② 専攻専門科目

専攻専門科目は、栄養士の免許を取得するために必要な科目で構成されており、内容によって基礎科目と応用科目にわけている。

基礎科目では、社会生活と健康、人体の構造と機能、食品の化学的性質、栄養素の消化吸収・代謝など栄養学の基礎、調理学を学び、栄養士に不可欠な知識・理論を身につける。

応用科目では、ライフステージや病態に沿った栄養学、栄養の指導、特定給食施設の管理・運営などの講義や実習を通して、栄養士業務に関わる知識と技術について学ぶ。

また、実習・実験では、学んだ知識を生かして、問題解決力と実践力を培う。

(2) 生活科学専攻

生活科学専攻では、生活全般を対象とした実践的な専門知識と技能の習得、更に柔軟な思考力やデザイン力の獲得を目指して、カリキュラムを学科共通科目と四系列からなる専攻専門科目（専門基礎系、ライフデザイン系、ビジュアル・ファッションデザイン系、建築デザイン系）で構成している。

専攻専門科目は四系列とも講義や実習、演習を通じ、実践的な少人数教育により、主体的に取り組む力を伸ばす。また、専門基礎系以外の三系列ではゼミ形式で行う「卒業研究」を開設している。志望する分野や課題を選択して研究を進め、2年間の専門教育を完成させる。

① 学科共通科目

生活科学科では、社会生活を送る上で必要となる豊かな人間性と幅広い知識を身につけ、更に専門分野の修学に応用できるよう科目を配置している。

学科共通科目では、人間、生活、文化、社会との関連性を重視するとともに、健康で豊かな人生を創造でき、心身の健康を養い、情報化の進展に対応した教育を行う。

② 専攻専門科目－専門基礎系

ライフデザイン系、ビジュアル・ファッションデザイン系、建築デザイン系の科目の修得につながる基礎的な科目を配置している。生活科学専攻の教育目標や体系を理解し、どの系列を主に修学したいかを意識しながら、系列やゼミ（卒業研究）選択の準備をする。

③ 専攻専門科目－ライフデザイン系

生活や人間関係、それを取り巻く環境や文化、経済、福祉などについて総合的な理解につながる科目を配置している。生活の中の様々な事象を科学的に理解、分析することやそのために必要な基礎的知識の習得を行う。

④ 専攻専門科目－ビジュアル・ファッションデザイン系

ビジュアルデザインやファッションに関する科目を配置している。デザインの基礎を学ぶ科目から複雑なソフトウェアなどを使用して課題作成に取り組む応用科目まであり、深い専門教育が受けられ、資格やキャリアにつながるスキルを身につけられる。更に、様々な課題解決につながる感性やセンス、デザイン力を養う。

⑤ 専攻専門科目－建築デザイン系

住居や商業施設などのインテリア、エクステリアといった空間デザインに関する科目を配置している。住居などの歴史や設計・製図の技法、将来の望ましい住環境のあり方までを考え、学ぶことができる。また、二級建築士や木造建築士、インテリアプランナーの受験に必要な知識と技術も基礎から応用まで習得する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.k-kentan.ac.jp/about/admissionp2020.pdf>)

<生活科学科>

区分	食物栄養専攻	生活科学専攻
教育理念・目標	<p>生活科学科は、「衣・食・住を中心とする生活全般を対象とした実践的な専門知識と技能の習得を通して、柔軟な思考力及び判断力を有し、地域社会に貢献できる人材を育成する」ことを教育理念としています。</p> <p>食物栄養専攻は、「食物及び食生活についての幅広い科学的知識と専門的知識の習得を通して、健康の維持増進のための実践的能力を有し、地域社会に貢献できる人材を育成する」ことを目標にしています。</p>	<p>生活科学専攻は、「衣及び住を中心とする生活全般に関わる専門知識の習得を通して、生活に関わる事象を科学的に分析・理解する能力及び質の高い生活環境をデザインする能力を有し、地域社会に貢献できる人材を育成する」ことを目標にしています。</p>
求める人材	<p>① 食生活や健康と運動に幅広い関心を持つ人</p> <p>② 「食生活を科学する」ということに興味を持ち、自ら学習し追究する意欲のある人</p> <p>③ 楽しい食事を創造するための調理や食品加工に興味・関心のある人</p> <p>④ 将来、栄養士として人々の健康づくり、栄養改善に貢献しようという意欲のある人</p> <p>⑤ 栄養教諭二種免許状を取得して、栄養教育にかかわる進路を目指す人</p>	<p>① 身の回りにあるものの成り立ちやデザインに興味があり、実践的に学びたい人</p> <p>② 自然・社会・文化環境など多様な視点で生活について学びたい人</p> <p>③ 生活の課題を認識し、問題解決を目指して新たな生活スタイルを創造していきたい人</p> <p>④ 中学校教諭二種免許状（家庭）や住居・デザイン関連の資格取得に関心のある人</p>
受入方針	<p>大学入学共通テストと個別学力検査の総合評価により入学者の選抜を行います。</p> <p>大学入学共通テストでは、国語、英語（リスニングを含む）、及び選択科目として理科（生物・化学）または数学の基礎学力を判定します。</p> <p>個別学力検査では、小論文により高等学校を卒業した者にふさわしい学力、食物栄養専攻で求められる問題意識及び適性の有無に関して判断できるような問題を課します。また、自然科学に関連した分野について、論理的な思考力、分析力、理解力及び表現力を確認します。</p>	<p>大学入学共通テストと個別学力検査（面接）の総合評価により入学者の選抜を行います。</p> <p>大学入学共通テストでは、国語、英語（リスニングを含む）、及び選択科目として地歴・公民、理科または数学の基礎学力を判定します。</p> <p>面接では、志望動機や生活科学専攻で学びたい領域及びこれまでの活動や経験（資格・検定、特技、生徒会活動、クラブ活動、社会活動等）を確認します。それにより、専攻への適性や自分の考えを的確に表現する力を総合的に判断します。</p>
	<p>小論文、面接、調査書・学校推薦書、志望理由書等の総合評価により入学者の選抜を行います。</p> <p>小論文では、高等学校を卒業した者にふさわしい学力、食物栄養専攻で求められる問題意識及び適性の有無に関して判断できるような問題を課します。また、自然科学に関連した分野について、論理的な思考力、分析力、</p>	<p>小論文では、高等学校を卒業した者にふさわしい学力、生活科学専攻で求められる問題意識及び適性の有無に関して判断できるような問題を課し、修学上必要な読解力・分析力・考察力・論理的思考力・文章表現等を判定します。</p> <p>面接では、生活科学専攻への入学意欲、勉学意欲、生活科学専攻への適性などを総合的に判断します。</p>

	<p>理解力及び表現力を確認します。</p> <p>面接では、志望動機や意欲等を確認します。</p> <p>調査書・志望理由書では、全体の評定及び高等学校における活動・経験と資格等を評価に加えます。</p>		
学部等名 商経学科			
教育研究上の目的（公表方法： http://www.k-kentan.ac.jp/ ）			
（概要）各学科共通			
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.k-kentan.ac.jp/about/diploma.pdf http://www.k-kentan.ac.jp/kpcinfo/data/5-4rishukitei2020.pdf）</p>			
<p>（概要）</p> <p>■ 商経学科</p> <p>経済専攻においては、「経済・社会の理論を学び、地域社会及び産業の分析を通して、地域の課題を発見する能力、課題解決の意欲と能力を有し、地域経済の発展に寄与できる基礎を備えた人材」、経営情報専攻においては、「経営及び組織の理論を学び、会計・情報処理の技能修得を通して、ビジネスを企画・管理する意欲と能力を有し、地域産業の発展に寄与できる基礎を備えた人材」、第二部商経学科においては、「広く世界、日本、地域の経済・社会と企業の構造と運動を研究し、情報処理の技法習得を通して、柔軟な思考力と企画力、そして豊かな人間関係の構築力を有し、地域活性化のために活躍できる基礎を備えた人材」の育成を図り、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学しかつ単位を修得した学生を「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えたものとして、商経学科にあっては学位「短期大学士（商経学）」を授与する。</p> <p>【学生が卒業までに身につけるべき能力】</p> <p>(1) 経済専攻</p> <p>① 地域経済から国際経済・法学まで幅広く学び、身近な生活を地域社会やグローバル社会と結びつけて考えることができる。</p> <p>② 地域社会の動きを把握し、同時に産業の分析ができる。</p> <p>③ 地域の課題を発見し、課題解決のための方策を考え出すことができ、最終的には地域社会に貢献できる。</p> <p>(2) 経営情報専攻</p> <p>① 経営及び組織の理論、会計そして情報処理について学び、企業活動などを分析することができる。</p> <p>② 経営の知識とITや会計の技能を駆使して、企画・管理・運営を行うことができる。</p> <p>③ 会社や組織の社会的価値を向上させると同時に、積極的にそれらの組織に貢献できる。</p> <p>(3) 第二部商経学科</p> <p>① 経済学、法学、地域経済、国際経済、経営、会計、情報処理など幅広い分野について勉強し、地域社会の状況を把握し、地域の問題を把握できる。</p> <p>② 多様な年齢層とバックグラウンドをもつ学生の学びの場を活かして、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>③ 地域活性化、もしくはすでに働いている場で即戦力として貢献できる。</p>			
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>（公表方法：（公表方法：http://www.k-kentan.ac.jp/about/curriculum.pdf）</p>			

(概要)

■ 商経学科

(1) 専門基礎科目

商経学科では、経済専攻、経営情報専攻、第二部商経学科において共通とし、特に経済学と経営学を学ぶ上で必須となる基礎科目を学ぶことを目的としている。また、現代社会に必須の能力である情報系科目の基礎についても学ぶ。こうした基礎科目を学ぶことにより、様々な専門分野へ進んでいける力を養う。そのために①基礎理論、②情報基礎の2つの系列を設けている。

(2) 専門科目

ア 経済専攻

身近な生活を地域社会やグローバル社会と結びつけて考える力を養うことを目的とする。そのためには、社会科学のいくつかの分野の理論を中心に据え、国際社会についての理解を深めつつ、地域社会の課題解決に寄与するための方策を学べるように3つの系列に分かれている。それらは、「経済理論」、「国際環境」、「地域政策」である。これらの系列から横断的に履修することが可能になっている。

また演習科目では、少人数による実践的指導を行う。1年後期の演習Ⅰ、2年前期の演習Ⅱでは、自分が選択した教員の専門研究領域に応じたテーマの研究を通して、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを培う。2年後期の卒業研究では、履修の集大成として、各自が選択したテーマに基づいて卒業論文を執筆する。

イ 経営情報専攻

地域のビジネスを広く支える人材の育成をめざすことを目的としている。経営の知識とITや会計の技能を駆使して、企画、管理、運営を行う意欲と能力をもち地域社会に貢献できるようにするために、経営や会計に関する理論を中心に据え、様々な情報を分析し、情報を活用する方策を学べるように3つの系列に分かれている。それらは、「経営理論」、「情報分析」、「情報活用」である。これらの系列から横断的に履修することが可能になっている。

また演習科目では、少人数による実践的指導を行う。1年後期の演習Ⅰ、2年前期の演習Ⅱでは、自分が選択した教員の専門研究領域に応じたテーマの研究を通して、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを培う。2年後期の卒業研究では、履修の集大成として、各自が選択したテーマに基づいて、卒業論文を執筆する。

ウ 第二部商経学科

第二部商経学科では、多様な学生の要望に応えるために、経済専攻及び経営情報専攻よりも幅広いカリキュラムが用意されている。経済学、経営学、会計学に関する理論を中心に据え、地域社会と国際社会についての理解を深め、情報を分析し、そして活用できるように4つの系列が用意されている。それらは、「経済理論」、「地域と国際」、「経営理論」、「情報分析・活用」である。これらの系列から横断的に履修することが可能になっている。こうした幅広い科目を準備することで、社会人学生の幅広いニーズにも応えられるようにしている。

また演習科目では、少人数による実践的指導を行う。2年後期の演習Ⅰ、3年前期の演習Ⅱでは、自分が選択した教員の専門研究領域に応じたテーマの研究を通して、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを培う。3年後期の卒業研究では、履修の集大成として、各自が選択したテーマに基づいて、卒業論文を執筆する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.k-kentan.ac.jp/about/admissionp2020.pdf>)

<商経学科>

区分	経済専攻	経営情報専攻
----	------	--------

教育理念・目標	商経学科は、「広く世界、日本、地域の経済・社会と企業の構造と運動を研究し、情報処理の技法習得を通して、柔軟な思考力と企画力を有し、地域に貢献できる人材を育成する」ことを教育理念としています。	
	経済専攻は、「経済・社会の理論を学び、地域社会や産業の分析を通して、地域の課題を発見する能力、課題解決の意欲と能力を有し、地域経済の発展に寄与できる人材を育成する」ことを目標としています。	経営情報専攻は、「経営や組織の理論を学び、会計・情報処理の技能習得を通して、ビジネスを企画・管理する意欲と能力を有し、地域産業の発展に寄与できる人材を育成する」ことを目標としています。
求める人材	① 地域社会で起こっている社会的な動向に興味や関心をもつ人 ② 日々世界的規模で変動する経済現象を理論的に裏付けながら理解しようとする人 ③ 経済活動をはじめとするさまざまな社会参加の形態に関心をもつ人	① 企業の活動をその実際的な形から理解しようとする人 ② ビジネスにおけるIT活用の技能習得を目指す人 ③ 会計に関する知識・技能を習得しようとする人
受入方針	一般選抜	大学入学共通テストでは、国語、外国語（英語の場合にはリスニングを含む）、地歴・公民または数学により、基礎学力の到達度を評価します。 個別学力検査では、資料を読み解く力、論理的に思考する力、自分の考えを的確に文章で表現する力、経済・社会に関する知識・関心の高さを、小論文によって評価します。
	学校推薦型選抜	経済・社会に関する関心の高さ、柔軟かつ論理的に思考する力、自分の考えを文章で的確に表現する力を、小論文によって評価します。また、推薦書や志望理由書等を参考資料とした面接によって、本学科入学に対する目的意識や意欲、コミュニケーション能力、技能や資格等を総合的に判断します。 さらに、本学科でより高度な学問を習得する意思と適性を持つ意欲的な学生を選考するために、調査書による評価を行います。調査書では、高校在学中の成績を評価することに加えて、IT・会計・外国語等に関する技能検定や資格の取得、文化・スポーツ活動等での受賞歴等も評価します。
	社会人選抜	学習意欲の旺盛な社会人に広く門戸を開くことを目的とした入試制度であり、経済・社会に関する関心の高さ、柔軟かつ論理的に思考する力、自分の考えを文章で的確に表現する力を、小論文によって評価するとともに、面接を通して、本学科入学に対する目的意識や意欲、コミュニケーション能力等を評価します。

<第二部商経学科>

区分	第二部商経学科
教育理念・目標	第二部商経学科は、「広く世界、日本、地域の経済・社会と企業の構造と運動を研究し、情報処理の技法習得を通して、柔軟な思考力と企画力、そして豊かな人間関係の構築力を有し、地域活性化のために活躍できる人材を育成する」ことを教育理念としています。
求める人材	① 働きながら社会に触れ、体験したことを大学で理論的に再確認してみようとする人 ② 地域社会で起こっている社会的な動向に興味や関心をもつ人 ③ 会計やITの知識・技能の習得を目指す人

受 選 入	一 般 選 抜	<p>県下唯一の夜間課程である第二部商経学科では、入試の負担を減らし、社会人を含む多様な人材に広く門戸を開くため、大学入学共通テストは課さず、調査書または高等学校卒業程度認定試験の合格成績証明書により、基礎学力の到達度を評価します。</p> <p>個別学力検査では、資料を読み解く力、論理的に思考する力、自分の考えを的確に文章で表現する力、経済・社会に関する知識・関心の高さを、小論文によって評価します。</p>
方 針	特 別 推 薦 型 選 抜	<p>経済・社会に関する関心の高さ、柔軟かつ論理的に思考する力、自分の考えを文章で的確に表現する力を、小論文によって評価します。また、推薦書や志望理由書等を参考資料とした面接によって、本学科入学に対する目的意識や意欲、コミュニケーション能力、高校在学中あるいは社会での経験、技能や資格等を総合的に判断します。</p> <p>さらに、本学科で高度な学問を習得する意思と適性を持つ意欲的な学生を選考するために、調査書または高等学校卒業程度認定試験の合格成績証明書による評価を行います。</p>
	有 職 者 特 別 選 抜	<p>学習意欲の旺盛な有職者、就職内定者、過去に職に就いた経験がある者に広く門戸を開くことを目的とした入試制度であり、面接を通して、本学科入学に対する目的意識や意欲、経済・社会に対する関心の高さ、コミュニケーション能力等を評価します。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.k-kentan.ac.jp/kpcinfo/data/lidea.pdf>
<http://www.k-kentan.ac.jp/kpcinfo/data/2organization.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
文学科	—	5人	4人	1人	1人	人	11人
生活科学科	—	4人	6人	1人	6人	人	17人
商経学科	—	4人	5人	2人	人	人	11人
第二部（商経）	—	4人	1人	人	人	人	5人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			72人				72人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.k-kentan.ac.jp/teachers/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学科	60人	66人	110%	120人	137人	114%	0人	0人
生活科学科	60人	66人	110%	120人	130人	108%	0人	0人
商経学科	75人	82人	109%	150人	170人	113%	0人	0人
第二部（商経学科）	60人	58人	97%	180人	178人	99%	0人	0人
合計	255人	272人	107%	570人	615人	107.9%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学科	81人 (100.0%)	14人 (17.3%)	46人 (56.8%)	21人 (25.9%)
生活科学科	65人	10人	48人	7人

	(100%)	(15.4%)	(73.8%)	(10.8%)
商経学科	81人 (100%)	9人 (11.1%)	59人 (72.8%)	13人 (16.0%)
第二部 (商経学科)	50人 (100%)	0人 (0.0%)	25人 (50.0%)	25人 (50.0%)
合計	277人 (100%)	33人 (11.9%)	178人 (64.3%)	66人 (23.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内			
		卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画（以下、シラバス）は、毎年10月頃の教務委員会で、（1）様式、（2）記載項目を確認し、12月頃に学科会議を通して各教員に作成を依頼する。各専攻の教務委員は、シラバスの記載内容に不備がないかを確認して1月に取りまとめ、年度末までに印刷する。</p> <p>印刷したシラバスを学生1人1人に配布すると同時に、本学のホームページ（学外者も閲覧可能）で公表している。ホームページの閲覧にはパスワード等は不要で、誰でも閲覧することが可能となっている。</p> <p>本学でのシラバスの内容は、①授業の方法（講義、演習、実験、実習の別）、②授業のテーマ・概要・到達目標、③テキスト・参考文献、④授業の計画（15回の講義ならば15回分のテーマ）、⑤授業外学習（予習・復習）について、⑥成績評価の方法（評価の際の試験・レポート・小テストの割合も示す）も記載している。令和2年度からのシラバスでは、新たに⑦実務経験のある教員の項目を設置した。</p>

⑤ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスにおいて、すべての講義、実験、実習の科目の成績評価方法を明記し、学生に事前に周知している。また、客観的な評価の割合（例えば、期末試験70%+小テスト30%など）もシラバスで明示している。この成績評価の方法、および評価の割合は、ホームページでも公表している。</p> <p>また成績評価の基準については、「鹿児島県立短期大学履修規程」において、90点以上を「秀(A)」、80点以上～90点未満を「優(B)」、70点以上～80点未満を「良(C)」、60点以上～70点未満を「可(D)」、60点未満を「不可(F)」としていて、この点については、各学生に配付する『学生便覧』およびホームページ（学外者も閲覧可能）で事前に公表を行っている。</p> <p>ホームページ等で学生にあらかじめ示した客観的な公表した「成績評価の方法」及び「成績評価の基準」にしたがって、学修成果の成績を判定している。</p> <p>また、卒業の認定に当たっての基準については、「鹿児島県立短期大学学則」において、本学を卒業するためには、修学年限以上在学し、所定の62単位を修得しなければならない旨を規定している。</p>

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本文学専攻	6.2単位	有・無	2.5単位
	英文学専攻	6.2単位	有・無	2.5単位
生活科学部	食物栄養専攻	6.2単位	有・無	単位
	生活科学専攻	6.2単位	有・無	2.5単位
商経学部	経済専攻	6.2単位	有・無	2.5単位
	経営情報専攻	6.2単位	有・無	2.5単位
第二部 商経学部		6.2単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑥ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.k-kentan.ac.jp/kpcinfo/data/7-3facilities.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学科	日本文学専攻	390,000 円	169,200 円	0 円	
	英文学専攻	390,000 円	169,200 円	0 円	
生活科学科	食物栄養専攻	390,000 円	169,200 円	0 円	
	生活科学専攻	390,000 円	169,200 円	0 円	
商経学科	経済専攻	390,000 円	169,200 円	0 円	
	経営情報専攻	390,000 円	169,200 円	0 円	
第二部 商経学科		200,800 円	71,800 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では、食物栄養専攻を除く全ての学科専攻でゼミ担当制を執っており、学生は必ずいずれかのゼミに所属することになる。入学当初の1年前期では、文学科と生活科学科生活科学専攻はまだゼミが始まっていないため、学籍番号によって指導教員を割り振っている。留年者と休・退学者の状況把握と対処については、本学では学年制を強く執ってはいないために、留年については卒業年次の遅れ（卒業延期）という形で現れる。長期欠席が休・退学に繋がることも多いので、各学科専攻のゼミ担当教員（ゼミのない食物栄養専攻においては担任教員）と教務課が連携して学生の状況を把握し対処している。留年者や成績不振者の指導は、基本的にゼミ担当教員などその学生の指導教員が当たっている。学科会議等において、支援方法が議論され、学科長や教務委員・学生委員が助言することもある。学生本人の希望や指導教員などの助言によっては学生相談室長が対応する。第二部の場合は教務課の第二部担当職員が当たる場合もある。いずれの場合も、教職員間の連携によってきめ細かな支援ができるようにしている。また、学生によっては、保健室担当職員に相談することもあり、その場合は保健室会議を通じて他の関係部署と連携して支援している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生の進路選択に係る支援は、学生委員会と学生課が連携して行っている。学生委員会は、学生の進路支援の方法を検討するほか、企業への学校推薦選考、四年制大学等への推薦編入学の選考にも当たり、学生の進路状況を各学科に報告する任務も負っている。学科に伝えられた学生の進路状況は、指導教員が把握して、個別の学生支援に役立てている。また、平成28年度からは、1年次の教養科目「キャリアデザイン」の運営を教務委員会から学生委員会に移管し、授業も含めたキャリア形成の一元化を図っている。学生課は、学生の進路状況を常時把握して、新たな支援方法を学生委員会に提案するほか、同課職員は学内推薦選考部会員も務め、マナー指導、面接指導、履歴書添削、個別面談などの具体的指導にも当たっている。進路資料室には、学生の進路選択に資するため、企業から寄せられたパンフレット、「就職四季報」や公務員・教員採用試験関係の資料、四年制大学編入に関する資料、専門学校を受験資料、先輩達の受験体験記などが置かれており、学生に利用されている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では、学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生に配慮する組織として、学生部長のもとに保健室と学生相談室を設けている。保健室と学生相談室は連携して相互の情報交換を行い、必要に応じて学生部長や学生部に報告している。また、月に1度の保健室会議では学生部長、学生部次長とともに、学生支援の状況の確認と適切性の検証を</p>

行っている。また、学生委員会と学生課の主催で、学生の健康な心身保持のために、講演会も開催している。保健室は、学生及び教職員に対する健康診断、保健指導、相談（心の問題も含む）などの健康保持・増進業務を行っている。保健室には現在、昼間勤務の教務補助員（養護教諭資格）、夜間勤務の教務補助員（養護教諭資格）が配置されている。昼間勤務の勤務時間は9時から12時、13時から16時30分である。夜間勤務は16時30分から21時30分である。年間を通じての定期的な業務としては、学生課とともに例年4月に定期健康診断を実施し、学生一人一人の健康状態をチェックしている。要検査、定期管理が必要な学生がいる場合には、受診勧告を行っている。また、必要に応じて病院を紹介するなどして対処している。また、月に1回、学校医（現在は心療内科医）による健康相談を実施し、希望者については病院の紹介や保健指導を行っている。日常業務としては、上記健康診断の事後処理及び健康相談、身体測定、怪我や病気の応急手当や静養などがある。大学や学生自治会の行事には、不測の事態に備え、救急箱の貸し出しや、救護活動を行っている。

学生相談室は、学生の心の健康、進路や就職、学業、対人関係、性格上の悩み、経済的な悩み、その他学生生活全般の相談に応じ、助言・指導を行うことを業務としている。学生相談室長は臨床心理士の資格を持つ心理学担当教員が務めている。事務は学生課が所管している。学生相談室長は、常設の相談員の役を務めるとともに、保健室が受けた心身の健康相談の報告を受け、承認や指示を与えるという役割も担っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学では、「鹿児島県立短期大学の基本方針」の4において、本学の教育研究環境の整備に関する方針を定めており、この基本方針を鹿児島県立短期大学諸規程集及びホームページ（<http://www.k-kentan.ac.jp>）、学生便覧に掲載している。

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	鹿児島県立短期大学
設置者名	鹿児島県

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		115人	112人	118人
内 訳	第Ⅰ区分	65人	67人	
	第Ⅱ区分	28人	25人	
	第Ⅲ区分	22人	20人	
家計急変による支援対象者（年間）				－人
合計（年間）				118人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	—人	—人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	—人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	—人	—人
計	—人	—人	—人
(備考) 第一部(修業年限2年)は、短期大学、高等専門学校及び専門学校に計上 第二部(修業年限3年)は、右以外の大学等に計上			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	—人	11人	—人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	—人	11人	—人

(備考)

第一部（修業年限2年）は、短期大学、高等専門学校及び専門学校に計上

第二部（修業年限3年）は、右以外の大学等に計上

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。